

第4回選定委員会議事録

令和5年7月26日(水)

【開会】

- ◇事務局 欠席者報告
- ◇会長 議事確認
- ◇事務局 日程についての説明

【保健】

- ◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-③、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、1、2の観点。
大日本図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-⑤、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、2、4の観点。
大修館書店。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-⑤、3-⑥、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、なし。
文教社。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-⑤、3-⑥、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、なし。
光文書院。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、なし。
学研。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-③、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、1、3の観点。
以上のような調査結果から、優れていると考えられる特徴のある三者、東京書籍、大日本図書、学研の教科書について説明する。
東京書籍について、第1の観点と第2の観点を取り上げる。
まず、第1の観点、「基礎・基本の定着」。5・6年生の教科書の41ページ。「けがの手当て」の実習のやり方が、文章とイラストを使って分かりやすく示されている。それぞれの項目において自己評価のチェックもあり、学習内容が確実に定着できたかを確認することができる。また、その下にある「深める・伝える」においては、実習で獲得した「基礎・基本」を定着・活用する場面も提供されている。このような学習場面を設定することで、「基礎・基本の確実な定着」が期待できると考えられる。
次に、第2の観点、「主体的に学習に取り組む工夫」。5・6年生の教科書の52ページ。「まとめる・生かす」において、「病気の予防」で学習した内容を、「病原

体・うつる道筋・抵抗力」の3つのキーワードを使って振り返らせる学習を仕組んでいる。キーワードを指定することで、学習内容の確実な定着を図ることができる。また、児童の生活場を振り返らせることで、学習内容を生活にどのように生かしていくかを考えさせる工夫も見られる。

なお、第3から第5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。このように東京書籍の教科書は、「基礎・基本の確実な定着を図るための工夫」と「主体的に学習に取り組む工夫」が、他の教科書と比較して特徴であると言える。

次に、大日本図書について、第2の観点と第4の観点を取り上げる。

まず、第2の観点、「主体的に学習に取り組む工夫」。5・6年生の教科書の10ページ。導入「つかもう」の場面で、イラストを参考にしながら自分の生活について振り返る学習活動が提示されている。大部分の児童にとって、日常生活において自分の「心の成長」について改めて振り返る場面は、少ないと想像できる。そこで、単元の導入時にそうした活動を意図的に設定することで、「心の発達とは？」という単元全体への興味づけを図ることが期待できると考える。

次に、第4の観点、「本文記述と関連付けがなされた学習資料の活用」。5・6年生の教科書の7ページ。教科書巻頭に、ほぼ全ての児童が知っており、なおかつ興味・関心の高い大谷翔平選手を題材に扱っている。そしてQRコードで「大谷選手直筆の目標達成シート」を提示することで、児童の興味・関心を高めることが期待できる。ここで高めた興味・関心が、今後の学習においても、「どんな資料が提示されるのだろうか？」と児童の期待を高めることに寄与すると考えている。

なお、第1・3・5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。

このように大日本図書の教科書は、「主体的に学習に取り組む工夫」と「本文記述と関連付けがなされた学習資料の活用」が、他の教科書と比較して特徴であると言える。

最後に、学研の教科書について説明する。この教科書では、特に第1の観点と第3の観点を取り上げる。

まず、第1の観点、「基礎・基本の定着」。5・6年生の教科書の42ページ。ここでは、「けがの手当てのやり方」が、イラストや短文を活用して分かりやすく示されている。これらを参考にすることで、「けがの手当てのやり方」を具体的に理解することができると考えられる。また、QRコードで「けがの手当ての動画」を視聴でき、児童の理解がより深まることも期待できる。実習後の振り返りにおいては、学習内容について自分の言葉で記述させることで、基礎・基本の定着を図ることができるように工夫されている。

次に、第3の観点、「内容の構成・配列・分量」。5・6年生の教科書の26ページ

ジ。全ての小单元において同じ示し方であるが、「予想をしよう」でイラストを提示して「課題を発見」させた後に、「資料を読み取り」「原因を話し合い」「学びを生かす」という構成になっている。そして、この学習サイクルが、左上の「学習の進め方」に視覚的に示されている。こうして同じパターンで学習が展開される工夫があるので、児童は安心して学習に参加することができると考えている。

なお、第2・4・5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。

このように学研の教科書は、「基礎・基本の定着」と「内容の構成・配列・分量」が、他の教科書と比較して特徴であると言える。

以上で、説明を終わる。

- ◇会長 選定委員から質問をお願いします。
- ◇会長 大日本図書の第2の観点。先ほどの説明の中で、導入の場面で、自分の生活について振り返る活動が提示されているということについて、自分の心の成長についてあらためて振り返る場面という説明だったが、どの单元にも心の発達や心の成長の振り返りがあるという説明でよいか。
- ◇調査員 いいえ。それは单元によって変わっている。それぞれの单元において、自分の生活についてもう一度振り返って、そこから課題を発見していくという構成になる。
- ◇会長 紹介したところが、心の成長だったということ。
- ◇委員 子どもたちにとって、自転車の事故が心配であるが、ヘルメットが着用義務になってきているが、教科書の中で全て触れられているか教えてほしい。
- ◇調査員 その観点については全てを確認できていない。申し訳ないが、分からない。
- ◇委員 パッと見た感じ、イラストや写真を見ると子どもはヘルメットをかぶっているように見える。今後重点的に指導すべき事かと思って質問させてもらった。
- ◇会長 学研の第1の観点の説明の中に、学習内容についての振り返りで先ほどの説明の中で、自分の言葉で記述させるとあったが、その点については、他者との違い、特徴だと捉えてよいか。
- ◇調査員 はい。全ての单元ではないが、キーワードを提示して、この言葉を使いつつ、自分の言葉も使って振り返りを書くことは、基礎基本の定着には有効であると考えられる。
- ◇会長 キーワードは教科書の中で与えられている。このキーワードは使いましょうねということで、自分の言葉でというのは、キーワードを使って表現するということか。
- ◇調査員 はい。
- ◇委員 項目について新しく出てきたものがあるか。
- ◇調査員 どの者も、QRコードがある。今回の特徴なのではないか。調査員も話をしていた。

- ◇委員 指導の内容について、新しく出てきたものはあるか。
- ◇調査員 どの教科書も以前に比べて、ページ数が増えている。特に、現行は、学研の教科書であるが、見開き2ページで1時間だったのが、見開き4ページで1時間になった。情報量が拡大しているが、写真が大きくなり、すっきりした印象である。
- ◇委員 学研の第3の観点で、「他者と比べて、目次が見やすい」とあるが、そんなに詳しいとは思えないのだが、あえて特色として挙げられたのはどういうことか。
- ◇調査員 確認ができない。申し訳ない。
- ◇委員 私の推測だが、他者に比べて学習の目標が詳しいのだと思う。それだと、あとの文にもつながると思う。
- ◇会長 目次が詳しいとは言えない。目標や学習の進め方が詳しく示されていると思うが、それはどうか確認できるか。
- ◇調査員 今持っていないので、確認ができない。
- ◇会長 それは言えるか確かめたいのだが、どうだろうか。
- ◇調査員 吹き出しなどを使って、学習の進め方を詳しくわかりやすく示している。
- ◇会長 東京書籍などと比べて優れているか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 単元の目標の提示の仕方が詳しいと言うことで理解する。
保健についての調査研究報告は以上とする。

〔調査員退室〕

審議に入る。

- ◇会長 報告書について特徴は書かれているが、これが優れた特徴なのだという説明になっていないところがあるので、多少文言の修正が必要である。
- 東京書籍、第1の観点③について、ここに付け加えて、「これらによって基礎・基本の確実な定着が期待できる。」とする。
- 第2の観点については、「主体的に」の後、「生活場면을振り返ることで、学習内容を生活にどのように生かしていくのか考えることができる。」としたい。
- 大日本図書、第2の観点では、「導入で、自分の生活を振り返る活動が提示されており、単元全体の興味付けが期待できる。」ということをつけ加える。
- 後ろにつけるのではなく、前につける。
- 学研、第1の観点の③、振り返りの後に「キーワードを使って自分の言葉で記述させることで、基礎・基本の定着を図ることができる。」とする。
- 第3の観点、もくじを取って、「単元の目標の提示の仕方が詳しい」とする。3つの順番ではなく、「3つの学習過程それぞれに応じた資料を記載している。」とする。

皆さんの方で、先程の説明に無かったことでも、気付いたこと等があれば出していただきたい。

◇委員 私は、子供たちの心の健康について、各者がどう取り上げたか気になった。学研なら5、6年の16ページから。東京書籍だと、13ページから。大日本図書、14ページから。子供達が学習をしていったときに、内容的には学研が学びの過程として優れていると思った。学研は、21ページから23ページまで、悩んだ時にどう対処したらいいか3ページにわたってあげられている。他者にはない。困った時の相談窓口のコーナーは、学研は19ページ、東京書籍は18ページ、大日本図書は17ページにある。学研と東京書籍が同じような扱いだが、学校での相談窓口が出ているのは学研のみである。今の子供たちの課題に応じて記述が多く見られたというの一つの特徴ではないかと思う。

◇会長 確かにそうだと確認した。学研の第3の観点に、「不安や悩みへの対処の内容が充実している。」と書き加えてはどうか。
他にはどうか。

◇会長 当選定委員会としては、3者とも○が2つなので、どこの者も優れている。比較した時に、どこの者がより優れているかという点で、内容面で言うと、考えさせたい内容が充実しているということで、学研の方がより優れているということではないか。

学研の第1の観点についても、基礎基本の定着、それは暗記と言うことではなく、学んだことが自分のものになっていくようにということである。

◇委員 保健の領域で、最近のコロナのこと、SNSの取り扱いの注意や自転車の事故、交通安全についてなど、新たな課題をどの教科書も入れている。

◇会長 子どもたちの安心と安全については、学校教育で一番大切なことだ。
今取り上げられている者は全て優れているで良いか。どこか特別に優れているか。

◇委員 それぞれ、どの者も優れている。

◇会長 3者とも○が2つなので、どこの者も優れている。比較した時に、どこの者が優れているかという点で、内容面で言うと学研がより優れている、としたいと思う。
保健については、以上にしたいと思う。
特別の教科道徳について、調査研究報告をお願いします。

【道徳】

◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑥、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第1、第5の観点。

教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第3、第4の観点。

光村図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第1、第3の観点。

日本文教出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑥、4-⑦、5-⑩。特徴的な点は、第1、第3、第5の観点。

光文書院。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑤、4-⑦、5-⑨。特徴的な点は、第1、第2、第3の観点。

学研。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑤、4-⑦、5-⑩。特徴的な点は、第3の観点。

以上のような調査結果を踏まえ、優れていると考えられる特徴のある三者、光村図書、日本文教出版、光文書院の教科書について説明する。

では、初めに光村図書の教科書について説明する。この教科書では、第1の観点と第3の観点と第5の観点を取り上げる。

まず、第1の観点、基礎・基本の定着。2年生の98ページ。「どうとくでつかうことば」として、気持ちを表す言葉を示し、自分の考えに沿った言葉を使い表現したり、また、5年生の76ページに図を使って考えたりという、教材へのむかい方のヒントを示し、児童が自ら学びを進め、深められるような工夫は、他の教科書と比較して特徴的な点である。

次に、第3の観点、内容の構成・配列・分量。3年生の18ページから26ページ。2つの教材と関連してソーシャルスキル・トレーニングのコラムを設け、ユニット化した「いじめをゆるさない心」が設定され、複数の教材により学びを深める工夫となっている。また、6年生の87ページから93ページ。「情報と向き合う」という主題で、情報モラルに関する教材とコラムのセットで学んだり、また、目次の中で、全学年、SDGsに関わりのある教材にはマークを付け、6年間で17の目標について考えることができるように設定して学びを深める工夫は、他の教科書と比較して特徴的な点である。

最後に第5の観点、言語活動の充実。全学年の巻頭に「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」として、話し合いのポイントや例を示し、教材の終わりの「考えよう・話し合おう」の中に対話の問いの例示がある。「みんなで気持ちよく話し合う」という話し合いのイメージを持たせることで、話し合いを深めるための工夫は、他の教科書と比較して特徴的な点である。

なお、第2、第4の観点については、別紙の一覧に示している通りである。

続いて、日本文教出版の教科書について説明する。

まず、第1の観点、基礎・基本の定着。4年生の124ページ。「つくればいいでしょ」また、6年生の54ページの「おかげさま」など、冒頭で主題に関わる問いかけを行い、教材文の終わりに「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」という発問により、主題から思考が逸れることのない発問の示し方の工夫は、他の教科書と比較して特徴的な点である。

次に第3の観点、内容の構成・配列・分量。現代的な課題等の踏まえた内容として、3年生の86ページから97ページにあるように、いじめの問題を扱った2つの教材と「心のベンチ」というコラムを組み合わせ、「人としての関わりユニット」として設定し、教材を基に考えたり、自分の生活を振り返ったりすることで、深い学習としていく工夫は、他の教科書として特徴的な点である。

最後に、第5の観点、言語活動の充実。学習のまとめりごとに、自分の考えをまとめる書き込み欄や別冊の道徳ノートにより自分の考えをまとめることができ、巻末の「見つけた！ここにもどうとく」として、ものごとの見方や思考の広がりや感じることができるよう工夫されているところは、他の教科書と比較して特徴的な点である。

なお、第2、第4の観点については、別紙の一覧に示している通りである。

最後に光文書院の教科書について説明する。まず、第1の観点、基礎・基本の定着。各学年、見開き2ページ目に問いを見つけ、考えを深め、授業後の自分の生活や社会に視点を広げて学んでいくという学びの過程を示しているところは、児童が見通しを持って学習が進められるよう工夫されており、他の教科書と比較して特徴的な点です。

次に、第2の観点、主体的に学習に取り組む工夫。6年生の30ページ。「みんなでやってみよう！」のページが設けられているが、実際の問題場面を想定した体験的な学習を通して考えるよう設定されている。児童の日常に良くある場面が設定されているため、考えを深め、実践につながる工夫は、他の教科書と比較して特徴的な点である。

最後に、第3の観点、内容の構成・配列・分量。全学年のとびらページに「命をかがやかせる」「いじめを生まない心」と各学年の重要主題を示し、年間で繰り返し学習し学びを深める工夫は他の教科書と比較して特徴的な点である。

なお、第4、第5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。

以上で、説明を終わる。

◇会長 選定委員の皆さんの方から質問はいかがか。

◇会長 情報モラルの扱いについて、光村図書第3の観点、日本文教出版も同様に取り上げたが、この扱い方が、この2者が他者との違いがあるか。

- ◇調査員 扱いは、全者、全学年、複数の教材を提示して学習するようになっている。
- ◇会長 扱い方の特徴で、この2者が他者と違うと言えるか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 この2者が他者と違う点はどういうところか。光村図書について、報告書では、教材とコラムのセットでということだった。日本文教出版については、コラムを設けてあるということであった。コラムが使われているだけか。
- ◇調査員 中身については、どの教科書でも扱われている、その中でも、特徴的だということで光村図書と日本文教出版を取り上げた。
- ◇会長 コラムが有効であるということか。
- ◇調査員 セットである、複数であるというところは有効であると捉えている。
- ◇会長 光村図書のソーシャルスキル・トレーニングについて、ページでいうと3年生の18～26ページというところで、具体的に言うと、SSTについては、どこか。
- ◇調査員 18ページの「日曜日の公園で」という教材から、22ページの「道夫を僕」という教材で学習して、そのあとのソーシャルスキル・トレーニングをするという流れになる。
- ◇会長 コラムとあったが、コラムではなくて、活動が設定されているということか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 コラムだったらさほど高い評価ではないと思ったが、確かめてみると、実際に子供たちにSSTをさせてみるということであった。このようなSSTを入れることは、他者には見られないのか。
- ◇調査員 いじめを許さないということを打ち出して、ユニットでいうところは、この教科書の特徴だと思う。
- ◇委員 日本文教出版の道徳ノート。他者にはない。採用されているが、実際に学校現場では、どのように活用されているか。
- ◇調査員 私の調査の中では、具体的な事を調査員からは聞いていない。特に、道徳ノートについて、使い勝手が悪いとか、話は出ていない。
- ◇委員 あった方がいいという意見はなかったか。
- ◇調査員 絶対にあっただ方がいいという強い意見はなかった。
- ◇会長 確認だが、現行使っているのは、日本文教出版である。道徳ノートのようなものは、以前は他者でも見られたが、今回は日本文教出版のみである。有効性がどこまであるのかという議論になる。使い勝手が悪いと言う意見もなかったが、ぜひ欲しいという意見もなかったということか。
- ◇調査員 道徳ノートで1年間の学びの過程を見とれるということ、また、3年間の自分の思考の変化、授業で考えた振り返りがあることによって、ノートとしてきちっとした

ものをもっているというのは有効的、心を養うと言う点でも有効であるというのが一点。デジタルコンテンツ等、活用する人とそうでない人がいるが、ノートになっていると、最低限このノートは使うことになる。確実に各教室の授業で成されていることになる。どの子もある程度、一定の学習ができるのではないかと。学習内容の平準化ができるのではないかと期待はできると思う。

◇会長 ノートが無い場合は、各先生がノートをつくることになる。

◇調査員 大体、どの者も、教科書の最後に振り返りがあるが、ノートのようにしっかり書くことができず、中身が少なくなる。子どもが学習を始める第一時間目に手に取るのは大事だと思う。

◇会長 ノートがあれば、こういうことをしましょうという型が決まってくる。平準化というよりは、教育の質の保証の面で有効ということである。

◇委員 いじめのユニット化が特徴であるということであったが、ほぼ全者、ユニット化になっているように見える。他の者と比べて、どう違うのか教えてほしい。数が違うのか。2つ教材だから。3つ教材だからなのか。

◇調査員 ユニット化と説明したのは、ただのユニットというところもあるが、先程のSSTのところもあるし、心のレンズというところで、いじめということを中心に、これをしっかり学ぶと打ち出しているという点に違いがあると思っている。内容的な所で心のレンズは子供たちに考えさせることができると思う。SSTのコラムのところも、いじめを許さないということをきっちり打ち出していて、目的、目標をもった学習内容というところで、そのあたりの示し方が違うと思う。

◇委員 教材だけでなく、それに付随している部分に特徴があるか？

◇調査員 はい。

◇会長 他にいかがか。

それでは、調査研究報告は以上とする。

〔調査員退室〕

◇会長 光村図書の第1の観点。「気持ちを表す言葉を例示したり、図を使って考えさせたりなど、」を「児童が主体的に」の前に挿入した方が良い。

自分の気持ちを表す言葉、言葉が自分の言葉にできていないというのは大きな問題である。自分の気持ちを表現できないから衝動的な行動に出してしまうなど、自分の中で解決できないことになる。これが低学年にあるのは有効であるので工夫ではないか。主体的に学ぶというより別の言い方で評価した方が良い。考えるときに図を使って考えさせるということも良い。どんな言葉を使うか、どんな風な整理をしようか、についてヒントと言うか、工夫されているのは評価できる。そのことを報告書の中で伝わるようにしたい。

「気持ちを表す言葉を例示したり、図を使って考えさせたりするなど、児童の主体的な道徳の学びを具体的に導き、児童の思考や表現を助ける工夫がある。」にする。

光村図書については、2つ目の第2の観点、ユニット化については、先ほどもあったように、他者でも見られる。SSTの活動が設けられている。「ページ」の代わりに「活動」にする。「関連している」は取る。

日本文教出版は第1の観点。そのままが良い。教材の終わりの「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」という発問によって、主題から思考がそれることがない発問の示し方の工夫がある。「教材文の終わりの「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」という主題から思考が逸れることがない発問の示し方の工夫がある。」と入れる。

道徳ノートのことはいれないといけない。「単元のまとまりごとの自分の考えをまとめる書き込み欄と、別冊の道徳ノートによって、自分の考えをまとめることができる。」また、「別冊の道徳ノートは、どの教室でも、学びの質を保証するのに有効である。」と付け加える。このノートがどうなのかという評価も入れておかないといけない。

◇委員 道徳ノートについて、今使っている物との比較すると、前は、評価をしないといけませんが、答えがあるわけではないので、先生によって大きく差が出るから、それを是正する意味で、道徳ノートがある方がいいだろうということになった。道徳ノートは、単元ごとに細かく説明されていて、ノートに従っていけば、一定のレベルでできるようになっていたと評価できる。しかし、今回は、内容がざっくりとしている。評価の根拠として残すことはできるが、そこまで細かくないので、個人的には、あまりポイントが高くないが、どう考えるか。

◇会長 発問があれば思考の焦点が絞られてくるが、今回のノートは、自由に使って良いという書き方になっている。何を書くかは先生の指示によって変わることになる。罫線のところは、自分の意見を書く欄になる。以前のものとは違うということは、留意しておかないといけない。

◇委員 私の考えなのだが、道徳は考え議論するのが前面に出ないといけないと思う。これまでいろんな者が道徳ノートを作ってきたが、淘汰されて今は1者のみになった。発問が本当に適切なのかということもある。学級の実態や様々な状況の中で、議論があって、今の状態になっていると思う。これまでの道徳ノートの取組を活かして、中心発問と振り返りを書くイメージになっている。私は、今回の道徳ノートは評価できると思う。

◇会長 深く考えもせずに考えたことにしてはいけない。子供たちに道徳的価値について我

がこととして考えてほしいということが前面に出てきていて、子供たちに考えさせるということの現れなのではないかと思う。以前と違って、焦点化して思考させる方法も一方ではあるが、それぞれの先生の子供たちへの迫り方が問われるような教科書になってきている。そうなってくると、教科書付属の道徳ノートは以前のような必要性は薄れてきているともいえる。このようなノートがなくてはならないものではなくてきているということである。

◇委員 先ほどから話題に出ていた情報モラルについて、3者がどう扱っているか調べてみた。特徴だが、日本文教出版は、満遍なく、ゲームやインターネット、情報モラル、SNSについて取り上げている。光村図書は、インターネットをかなり意識していて、ほぼ6学年統一している。考えが古いのかもしれない。光文書院は、ほぼスマホであった。様々な角度から、情報モラルを扱っていたのは、日本文教出版。日本文教出版は1年生54ページ。2年生なら102ページ。3年生が48ページ。4年生が78ページ。5年生152ページ。最後6年生が40ページ。というように、様々なジャンルからアプローチしている。今、情報モラル教育というのはいじめの問題と絡めて扱っている。子供たちのためにはいいのではないか。日本文教出版が情報モラル教育の面では優れていると思った。

◇会長 第3の観点の最後に書き加えておく。「多様な面から情報モラルを扱っている。」とする。どこが焦点の中心になる。

◇委員 スマホの所持率。6年生でも100%はっていない。色んなジャンルの面からいるのではないか。

◇会長 スマホを扱うのは、健康面からの問題もある。

◇委員 いじめにつながることや相手に嫌な思いをさせないであるとかを意識しているのではないか。

◇会長 学年があがると、情報の危険性を知ることやインターネット上の情報の著作権の問題、権利関係の所が多くなっていく。児童の段階だと、子供たち自身の健康の側面、いじめの温床にならないという側面が大事ということになるか。

◇委員 光村図書は、6年生でインターネット上の権利を掲載している。ターゲットをどこにもっていくかは各者ちがう。本市の状況で言うと、日本文教出版がいいのではないか。

◇会長 いじめの扱い方についていかがか。どこが特によいとかあるか。これまでの採択でも、道徳については、いじめをどう扱っているか大きなポイントになってきた。評価できることは、指摘してほしい。

◇委員 いじめの扱いであるが、目次を見てみると、日本文教出版の184ページの6年生のところに、テーマが書いてあって、いじめについて9教材くらいある。他の教科

書は、9教材はない。

- ◇委員 掲載の仕方の問題ではないか。光文書院は、いじめについて2教材しかないが、子供の人間関係を扱っている教材としては、他にもある。日本文教出版はたくさんある。いじめの防止につなげることもいじめの教材として扱っているので、道徳の時間の中でいじめ対策について、幅広くとらえている。スタンスの違いであると思う。
- ◇会長 日本文教出版の第3の観点の最初のところに、「設定している。」のところを「設定しており、扱いが多面的である。」と入れておく。
- ◇委員 いじめの事が出ているが、現実問題、いじめがなくなっていない。どの教科書も同じではないか。選ぶ意味があるのかと思う。実際にこれを教えたらいじめがなくなるわけではない。ここにあるものを読んだら、対策、予防策になるのかと言えば、なっていない。そこまでこだわる必要があるのか。
- ◇会長 いじめの件数が増えているかどうか。文科省まとめでは、調査の仕方によるが、近年、より深刻化して、件数自体が上がってきている。いじめの問題は、古くからある。極論を言ってしまうと、なくならないから教えなくてもいいのかということになってしまう。
- ◇委員 いや、そうではなくて。そこまでこだわらなくてもいいのではないかということである。
- ◇会長 扱い方の微妙な違いを見て、より有効なのはどれなのかを考え選ぶ。いじめをする者も、いじめはいけないのは、わかっている。わかっているけどやっている。社会的には、それは許されない。社会的には罰せられる、ということきちんと教えないといけない。それを効果的に教えなくてはいけない。
- ◇委員 厳罰化を求める。これを読んだら心を入れ替えてくれるのでないかという読み方を。これが付いているから、というのは特色として必要なのか。そこまでこだわる必要があるのかなと思った。
- ◇会長 子どもの活動の言葉で単元名をつけると表現は甘くなる。そこは、各者違いはないが、光村図書のS S Tの役割演技、こんな場面でどう言ったらいいか、実地で練習させるのは良い。保健の学習で、薬物に誘われても断るといような実際の場面設定で練習させるのと同じ。このような方法は特徴として挙げることはできる。やれば必ずしもうまくいくわけではないが、うまくいく可能性として高くなるのではないかということに取り組むのが教育。道徳は特に難しい。誰も被害者や加害者になる可能性がある。どんな教材をもってきているか評価していくことは大事だと思う。
- ◇委員 日本文教出版の6年生に、いじめと法律とあり、法律に踏み込んでるのは、日本文

教出版のみである。

◇会長 いじめを止める瞬間というのは、自分の行為が社会的に通用しないと感じた時、思い知った時。法律の側面からも教える意味はある。

いじめの問題については、日本文教出版が色々な側面から扱っていて、例えば法律の面から扱っていて充実している。○3つは三者だが、より充実しているのは日本文教出版。

◇会長 では、道徳については以上とする。

【生活】

◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-⑥、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、1、2、3の観点。

大日本図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-④、2-⑤、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、2、3の観点。

学校図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-③、2-⑥、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、なし。

教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-③、2-⑥、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、1の観点。

光村図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-⑥、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、2の観点。

啓林館。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-③、2-⑥、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、1、2、4の観点。

以上のような調査結果から、優れていると考えられる特徴のある三者、東京書籍、大日本図書、啓林館の教科書について説明する。

では、初めに東京書籍の他社と比べて優れていると考えられる特徴として、3つの観点を挙げる。

まず、第1の観点。上1ページから13ページ。充実したスタートカリキュラムから始まっている。特徴的な内容としては、例えば4ページ左下のように「保護者の皆様へ」が各所にあり、保護者とともに学ぶことができる工夫があることや、55ページ上部の「やくそく」のコーナーできまりや安全について知らせているという特徴がある。

次に、第2の観点。上の49ページ、と下の28ページ。表現方法が多様に紹介されている。そして、比べると分かるが、水てっぽう等の実物で紹介していた1年半から2年生になると、図やカードを使った発表を紹介するなど、発達段階の系統

を考えて、多様な発表方法を紹介している。

最後に第3の観点。上の52～61ページ、下の30～41ページ。特定の生き物だけではなく、複数の生き物を取り上げており、興味関心をもって、また、学校や学級実態に応じて飼育活動に取り組むことができる。

次に、大日本図書の他社と比べて優れていると考えられる特徴として、2つの観点を取り上げる。

まず、第2の観点。上の4、5ページ。スタートカリキュラムを意識し、幼稚園や保育所、こども園と生活を比較するページがある。

次に、第3の観点。上の12、13ページ。季節を意識させる単元配列と目次の工夫がされている。

最後に、啓林館の他社と比べて優れていると考えられる特徴として、3つの観点を取り上げる。

まず、第4の観点。上61ページ。すべての単元において同様だが、単元導入は（オレンジ色）の「わくわく」、主な活動は（ピンク色）の「いきいき」、そして、ふり返りは（青色）の「ぐんぐん」の3段階で構成されている。このことは、児童にとって、見通しをもって学びやすく、主体的・対話的で深い学びへつながるよう工夫されている。

次に、第1の観点。下97ページ。各単元の（ふり返り）のページ（青色の[ぐんぐん]）には「できるかな・できたかな？」コーナーがある。育てたい資質・能力の3つの柱に即して整理してある。上から順に「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう人間性」。具体的な姿を示すことで、児童にとっては自己評価の視点になるし、教師にとっては、指導と評価の手がかりにすることができる。

最後に、第2の観点。上60・61ページ。他教科等とのつながりの例を豊富に掲載している。ここには、（作文）や（絵）が掲載しているが、他に、社会科の絵地図や体育・音楽・総合的な学習の時間等の活動例も掲載されている。他教科・領域とのつながり、幼児教育とのつながりや中学年以降への接続の配慮等、様々なつながりの例が豊富に掲載されており、カリキュラムをデザインしていく際、大いに参考になる。

以上で説明を終わる。

- ◇会長 選定委員の皆さんから質問があれば。
- ◇会長 東京書籍の第1の観点。きまりや安全については、要所要所にあるということか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 東京書籍の第2の観点、説明の中には無かったが、発表方法が紹介されているとあ

ったが、報告書には、シートの書き方が触れられている。ここにこんな工夫があるというのがあれば教えてほしい。

◇調査員 今のところ十分に把握できていない。

◇会長 報告いただいたことと、報告書の記載が違ったので確認しているのだが。もしなければ、内容を差し替える。

◇調査員 申し訳ありません。内容を差し替えでお願いします。

◇会長 現在使っているのはどこの教科書か。

◇調査員 啓林館である。

◇会長 現行使っているものと比較して、改善・改良されていることがあれば教えてほしい。

◇調査員 現行よりも、児童のわくわく感を引き出させる作りになっている。具体的に言うと、1つ目はICT。QRコードに「学びウェブ」というものがある。これは、現行にもあるが、内容がさらに充実している。よくなった点のもう1つが、「できるかな できたかな？」のコーナー。新しいものでは、育成を目指す資質・能力の3つの柱のモデルとなるような姿が示されている。

◇会長 現行のものにはなかったか。

◇調査員 はい。

◇会長 QRコンテンツの3者のちがいは。

◇調査員 各者バージョンアップはしているが、啓林館がより一歩リードしている。

◇会長 3者を取り上げたが、東京書籍と啓林館が○が3つ。比較してみると、啓林館の方が使ってみたいというポイントは高いか。

◇調査員 高いと思う。使ってみたいと言う調査員が多かった。

◇会長 他にはどうか。

特にないようなので、調査研究報告は以上とする。

〔調査員退室〕

審議に入る。

◇会長 東京書籍の第1の観点。スタートカリキュラムを例示しているが、文言を変えて、「充実したスタートカリキュラムが設定されている。」で良いと思う。「『保護者のみなさまへ』が各章にあり、保護者と共に学ぶ工夫がある。『やくそく』の欄にきまりや安全について示している。」ということ、特に特徴として挙げられたので付け加えたい。

第2の観点。差し替える。「実物での紹介から図やカードを使っでの発表へ、発達段階を考えた多様な発表方法を紹介している。」とする。

第3の観点、このままでは分かりにくいので、「複数の生き物を取り上げており、

学校や学級実態に応じた飼育活動に活用することができる。」を書き加える。

啓林館の第1の観点の③、これだけでは評価できないので、「育てたい資質・能力の具体的な姿を示すことで、児童の自己評価の観点を示しており、指導と評価の観点が明確になっている。」とする。最初は、「『できるかな』『できたかな』を設けることで、」とする。

もうひとつ、最後の第4の観点、「ぐんぐんの」後に、「3段階で構成されており、児童が見通しをもって学びやすく、児童が主体的・対話的で深い学びになっている。展開するよう工夫されている。」とする。

他に皆さん、何かあればどうぞ。

◇委員 私も、第1の観点の③は、大きな特徴であると思う。他の者には、こういった観点到に沿って最後振り返っていくような場面は見られない。子どもたちにとって、栽培して収穫するということは、達成感、満足感だけでなく、命を大切にすることも大切だと思う。例えば、2年生の下、啓林館だと12ページから。東京書籍だと下の8ページから、大日本図書だと下の20ページから。啓林館は学習過程が、最後に「命を大切にしよう」というところにつなげている。見開きページごとに栽培の流れが明確になっている。それに対して、東京書籍は、若干まとめてあり、過程が短い。大まかな流れになっていて、最後命の大切さまではつなげていない。大日本図書は、栽培したら、最後に食べるというところにこだわっていて、方向性が若干違う。20ページからだが、別のことを挟んで、44ページにとぶ。植える時期と就学の時期はちがうが、分かりにくい。啓林館の学習の流れが、より子供たちの学びに適している教材になっている。

◇会長 第4の観点か。

◇委員 はい。

◇会長 第4の観点。主体的の前に、「児童が自然に主体的・対話的で深い学びに展開するよう工夫されている。」とする。

啓林館の方がよりふさわしいと言うことで、選定委員会の意見にしてよろしいか。他に付け加えることは。

それでは、生活の審議については以上とする。

◇会長 前回の国語・書写、社会・地図について、確認をしておきたいと思う。

【社会・地図】

◇会長 前回の文言の修正が入ったものは画面に出ている。

社会については、東書が○2つ、教出が○2つ、日文も○2つである。

- ◇委員 どの観点になるかというのをおいて、3者を比較してみた。5年生の学習が大事だと思う。資料やグラフを読み取って、日本の地理を学ぶということが、PISAの学力観につながっていると思う。米作りの単元を比較した。東京書籍上80ページ。教育出版が72ページ。最後の日本文教出版が84ページ。めあての提示の仕方が、それぞれあるが、一番見やすく明確になっているのが、東京書籍で、最後のまとめにうまくつながっている。子供達がイメージしやすいように、図と標記の関連性については、東京書籍の3月から10月まで書きぶりが分かりやすい。
- 土地利用図が、庄内平野を取り上げている。東京書籍77ページ。教育出版68ページに出ているがとても小さい。日本文教出版82ページに土地利用図があるが、東京書籍と日本文教出版、どちらもしっかりしているが、東京書籍の方が見やすい。大きな特徴だと思うが、まとめを書くことを小單元ごとに、どの者もしているが、東京書籍は色々なまとめ方を提案している。表、白地図、ノート、キーワード、新聞、意見文にまとめることやキャッチコピーをつくるなど、様々なまとめ方をしている。他の者はそこまで工夫はない。ヴァリエーションも少ない。小單元ごとにまとめる活動を重視している。言語活動の充実の面からも、東京書籍が優れているという印象をもった。
- ◇会長 東京書籍がより優れているのではないかという意見だが、第5の観点の記述に、「また、学習の成果の様々な表現方法を示している。」と付け加える。
- ◇会長 どれも○3つでかまわないが。選定委員会としては、東京書籍がより優れていると言えば良いのではないかと思う。丸の数を調整してもかまわない。
- 先ほどの米作りは第4の観点。内容の表現・表記。優れているのであれば、丸を付けてもいいのではないか。
- ◇委員 図・表の使い方という東京書籍が他者より優れていると思った。表の見方をちゃんと解説してある。東京書籍がより詳しく、コーナーを作ってやっている。そういった面からいうと、第4の観点到丸を付けても良いのではないか。
- ◇会長 では、第4の観点到丸を一つ加える。今の、図や表のことを書き加える。どれもそうだが、「図や表をより効果的に用いている。」子どもたちに分かりやすくという意味と、子どもたちに学ばせるのに効果的という意味がある。「図や表を有効に活用するよう工夫されている。」とする。
- ◇委員 地図帳の方で、広島県に注目してみた。帝国書院は、39、40ページと東京書籍は25、26ページ。子どもにより親しみがわくのは、東京書籍だと思う。東京書籍は、尾道の千光寺、向島、瀬戸田が載っている。地域の情報が詳しく載っている。
- ◇会長 瀬戸田、向島は東京書籍の方にしかない。
- ◇委員 帝国書院だと、43ページに浄土寺がある。

- ◇会長 瀬戸内海周辺は、より詳しい。
- ◇会長 帝国書院の第3の観点。「瀬戸内海周辺の地図が掲載されている。」というのを付け加える。もう1つ丸を増やすか。
- ◇委員 一番中心に尾道が書いてあるので。
- ◇会長 今の記述を付け加えたうえで、帝国が○3つ。選定委員会としてより明確に価値判断を示すということではよろしいか。

【国語・書写】

- ◇会長 国語について。書写の教科書が、国語と同じ方がよいということである。国語は3者が○2つ。より良いのはどこかということでも見ていく。
- ◇委員 国語のとき不在だったので、言わせてもらう。子供達が読書に親しむためには文学教材が重要である。3者共通している作品を比べてみた。低学年の「スイミー」。学年が違うので、比較しにくい。同じ学年なのは、「ごんぎつね」と「大造じいさんとがん」。4年生、東京書籍下36ページから。光村図書下13ページから。教育出版下7ページ。挿絵を描いている人が違うから印象が違う。めあての捉え方が各者それぞれある。最後のまとめのページ。東京書籍56ページ。光村図書32ページ。教育出版36ページ。より叙述に沿って、根拠をもって、アプローチの仕方は東京書籍がオーソドックス。子供達のねらいを達成しやすい。教育出版は、読むことだが、書くことにつなげようとしている。ごんだけに着目している。最後に関連読書は、東京書籍は5冊。他者は3冊。振り返りのまとめは、東京書籍が一番焦点化されている。文学作品は挿絵が重要になってくるが、東京書籍は、最後の場面は、筒から煙が出ている挿絵になっている。光村図書も筒から煙が出ている挿絵になっているが、版画のような挿絵になっている。教育出版は兵十がごんを打つ瞬間の挿絵で、狐の頭をねらっていて、教育的に良いのかと思う。挿絵は重要である。現行は東京書籍でやっている。変える必要がない。子供達に学ばせるべき内容は、東京書籍がふさわしいという印象をうけた。
「大造じいさんとがん」も同様。5年生教材で、東京書籍178ページから。光村図書5年生の227ページ。教育出版は5年生上の89ページ。めあてとまとめのところを見ると、物語として、学習指導要領に則った内容を学ばせようと思えば、東京書籍がアプローチの仕方とすれば良いのではないかと思う。
- ◇会長 今のは、第4の観点ということになる。
- ◇委員 はい。関連付けという意味で言えば第4の観点。主体的に学習に取り組みという意味では⑥のところもある。
- ◇会長 「ごんぎつね」は、だれしも読んだことがある各者掲載の教材で、扱い方は違う。

挿絵も鑑賞の対象になる。学習の手引きのところであるが、東京書籍は①で物語構造をつかんで、②で登場人物の変化ということで、焦点化された問いがきちんと作ってあって、この問いを考えれば、この作品の核心に触れることになるだろう。この問いをそのまま使えば、手堅い、間違いのない問題の設定がされている。そもそもなぜ、この教材が定番なのか。最終的にはごんと兵十が理解し合えることにカタルシスを感じさせ、それなのに、ごんが死ななければならなかったやるせなさが問題として残っていく。というふうに読んだ人の心を揺さぶるという作品構造にある。そのことに直接、子供にふれさせるような問いは何かというと、東京書籍が考えさせたことになる。この教材で何を学ぶのかということを考えたときに、東京書籍は納得がいく、良い設定になっていると思った。「ごんの日記」はちょっと唐突だと思う。教材を読んで、子供達の中に解決のできない問題が残る。それをごんにだけ焦点をあてるのはどうかと思う。光村図書も良いとは思いますが、自分がごんや兵十だと考えてというのはちょっと危うい。最後に「あなたの思った事を書きましょう。」というのは良い。

今の話を聞くと、東京書籍が優れていると思う。

○2つのままで。選定委員会としては、「ごんぎつね」を例に取って言うと、挿絵や学習の手引きなどが、東京書籍が、その教材を学ばせたいことに触れさせている。第4の観点にも丸をつけて、記述を書き加えるか。

選定委員会としては、東京書籍がより優れているということを明確にするか。どれを採択しても問題はないが、より優れていると判断したと言い切ってもいいか。

〔「よい」と呼ぶ者あり〕

- ◇会長 選定委員会の姿勢が明確になった方が、選定しやすいだろう。
- ◇委員 皆さんがよければ、選定委員会として優劣をつけた方が、教育委員会はやりやすい。東京書籍の挿絵は一貫してタッチが優しい。挿絵を効果的に使っている。
- ◇会長 第4の観点⑨に、丸を付け加えて、一言書き加える。「挿絵や学習の手引きの内容が、その教材を使って学ばせたいことに迫るものになっている。」とする。書写も、国語と合わせて使った方がより効果的に学習できるという観点から、東京書籍が良いと選定委員会としては考えたということによろしいか。

〔「よい」と呼ぶ者あり〕

- ◇会長 以上で、選定委員会での審議事項はすべて終了とする。皆さんありがとうございました。

【閉会】

- ◇事務局 挨拶